



ジャラゾン難民キャンプでの住民説明会の模様（2018年3月）

March 2018

活動を新たに二つの難民キャンプに拡大

AJRCでのCIF/CIPの経験をJZ、OAに展開

2018年1月、難民キャンプ改善プロジェクト(PALCIP)は、ジャラゾン(Jalazone (JZ))キャンプおよび、アスカール(Old Askar (OA))キャンプでの活動を開始しました。1年次の対象地であったアクバットジャバールキャンプでは、社会調査～CIF設立～CIP策定～インフラ・ノンインフラパイロット事業の実施を通して、パレスチナ解放機構(PLO)難民局(DoRA)職員のプロジェクトに対する理解を深め、能力の強化を図ってきました。その経験をもとに、2年目となる今年度はジャラゾン、アスカールの2キャンプにて同様の事業を展開していきます。三重県とほぼ同じ面積を有するヨルダン川西岸地区ですが、その中に点在するキャンプはそれぞれに特色があり、アクバットジャバールキャンプでの経験をそのまま適用できるとは限りません。DoRAの応用力が試される2年目となります。

JZキャンプ、OAキャンプはどんなところ？

ジャラゾンキャンプはパレスチナ自治区の首都機能を有するラマラ北部に位置し、13,000人ほどが生活しています。キャンプの目と鼻の先にイスラエル軍の駐屯地や入植地があり、物理的にも心理的にも住民の生活に密接にかかわっています。一方、アスカールキャンプはパレスチナ北部のナブルス地域に位置し、6,500人*ほどが生活をしてしています。西岸地区にある19か所**の難民キャンプの中でも最も人口密度が高いキャンプの一つです。通りからひとたび脇に入ると、人が一人通れるほどしかない幅の路地が縦横無尽に走っており、人口密度の高さを物語っています。

アクバットジャバールキャンプは地方都市にあり、かつパレスチナ西岸地区の中でも最も人口密度の低いキャンプの一つであったことを考えると、2年目のキャンプの置かれている状況は非常に異なっています。

各難民キャンプでの活動開始(社会調査と住民集会)

2018年1月、2年次キャンプで社会調査を開始しました。1-2月には質問票調査、インタビュー調査を実施し、各キャンプにおける人口、世帯、雇用状況などの基礎データおよび、住民が持つキャンプの課題認識、キャンプ運営に関わる意見等を収集しました。3月にはPRA(参加型調査手法)を用いた調査を実施し、様々な立場の住民からキャンプ改善に関わるニーズや既存のリソースについてお話を伺いました。

DoRA職員はアクバットジャバールキャンプでの経験を活かして、質問票のレビューや、PRA調査時のインプットを行いました。今後、これらの調査結果をもとに、各キャンプでキャンプ改善計画策定の担い手であるキャンプ改善フォーラム(CIF)を形成し、キャンプ改善計画策定のための議論を行っていきます。

また、3月には2キャンプでPALCIPの活動に関する住民説明会を行い、キャンプ住民と意見交換を行いました。どちらのキャンプでも老若男女問わず幅広い層の住民が参加し、活発な意見交換が行われ、期待の高さがうかがえました。

*パレスチナ中央統計局(PCBS)2018データによる

**国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)公認キャンプに限る